



松林小だより

平成30年6月29日
学校便り No.4
羽村市立松林小学校

東京都羽村市羽4122-2 電話 042-554-7800

「むごい教育」とは…

校長 瀬戸 隆幸

6月26日(火)から28日(木)まで、6年生と日光移動教室に行ってきました。日光東照宮では、有名な「三猿」や「眠り猫」を見てきました。移動教室は、行くだけでも楽しい行事です。そして、日光は、移動教室でたくさんの小学生が訪れる魅力ある場所です。しかし、「誰と行くか」「どう過ごすか」によって、その思い出は大きく変わります。友達と過ごしたこの三日間は、きっと子供たちにとって、何十年先になっても話題にできる一生の思い出となったことでしょう。ご協力いただきました保護者の皆様、ありがとうございました。

さて、日光東照宮には、江戸幕府を開いた徳川家康が祭られています。その家康の父は三河（現在の愛知県）という小さな国を治める武将でした。しかも、三河は、織田や今川という大きな国に挟まれて、とても厳しい状況に置かれていました。そこで、家康の父は、竹千代（家康の子供の頃の名前）を今川義元のもとに人質として差し出し、逆らう気のないことを伝えました。しかし、竹千代を人質にした今川義元は、一目見てその素質を見抜き、このまま成長すれば将来、必ず立派な武将に成長して、自分をおびやかす存在になるだろうと予感します。そこで家来に「竹千代には、むごい教育をせよ」と命じました。

数日後、義元は家来に「むごい教育をしているか？」と尋ねます。家来は、自信をもって次のように言いました。

はい、「むごい教育」をしています。朝は早くから起こして、水練（水泳）をさせ、食事は三食とも粗末なものを食べさせています。昼は剣術や馬術に励ませ、夜は学問と休むヒマもなく厳しく教育しています。これほどの「むごい教育」はないと思われま。

これを聞いた義元は「馬鹿者！」と激怒します。そして、このように言いました。

それは「むごい教育」とは言わん！竹千代には、贅沢な食事を与え、朝から晩まで美味しいものを好きなだけ食べさせよ。寝たいと言ったらいつでもいくらでも寝かせてやり、休みたいと言ったら休ませよ。夏は暑くないように涼しくしてやり、冬は寒くないよう暖かくしてやれ。武術や学問が嫌だというなら、無理にやらせるな。本人の望む通りに、何でも与えてやり、好きなことを好きなだけさせて、どんなわがままでも聞いてやれ。

家来が驚き、「それは、むごい教育ではなく、楽な教育ではありませんか。」と尋ねると、義元はこう答えました。

そのようにすれば、たいていの人間はダメになる。

義元は、これから武士として生きていく竹千代の将来を恐れて、わがままを許し、楽をさせ、「つらいことにすぐに弱音を吐く」「気力のない」骨抜きのダメ人間にしようと思いました。義元のいう「むごい教育」とは、「厳しく教育すること」ではなく、必要以上に「甘やかすこと」ことだったのです。

現代と戦国時代を同じように比較することはできません。しかし、苦しさを経験させず、目の前の楽しさや安易で快適な生活だけを与えては、立派な大人になることはできません。少子高齢化の進む社会で、一人の子供に対する大人の手や目が増えていきます。「転ばぬ先の杖」ではないですが、「子供が失敗しないように…」「困らないように…」と、大人がつい先に手を出してしまったり、障害を取り除いてしまったりすることがあります。「失敗から多くのことを学ぶ。」「困ったら、どうすればいいか考える。」その繰り返しで、人は成長していくものです。

もうすぐ夏休みです。夏休み中はもちろんのこと、日々の生活が、知らず知らずのうちに「むごい教育」になってしまわないように、私たち大人が気を付けていきたいものです。